

こんな活動やっています

子ども吉兆さん

たいしゃ保育園 園長 石川 佳照

たいしゃ保育園では、めざす子ども像の1つに「ふるさとを愛する子ども」があります。

当園のある出雲市大社町には、毎年1月3日に歳徳神の神霊が鎮座する吉兆幡(吉兆さん)が町内を巡行し、五穀豊穡や無病息災を祈願する伝統行事があります。大社町立時代に地域の方より「歳徳神」と記された高さ2m、幅50cmの吉兆幡を寄贈され、以後保存・展示をしてきました。

地域から一層の活用を望む声があがり、平成27年に「子ども吉兆さん」を企画し、以後毎年恒例行事となりました。旧暦の正月に年長児の男の子が番内の衣装を身にまとい、女の子が太鼓でお囃子をたて、年中児が大太鼓・年少児が吉兆幡をひきます。

馬場同志会のみなさんに来ていただき、発表会が終了した後の2ヶ月間が太鼓の練習期間です。発表会を通してみんなで1つのもの

を作り上げてきた成功体験により、最初は独特のリズムに苦戦をしますが、日がたつにつれて息があつてきます。

当日はうらら館を出発し、神門通りを通って、1km先の出雲大社へ向かいます。地域の方や参拝者が沿道から声をかけてくれ、子どもたちは誇らしげであります。本殿前・神楽殿前・北島国造館神殿前で、元気よく「1月1日」を披露しました。

残念なことに今年は新型コロナウイルスのため、規模を大幅に縮小しての実施でした。来年はこの閉塞感を打ち破り、今までのような活動ができることを祈念しております。

この年代から地域の伝統行事にふれることにより、自分たちが生まれ育った郷土を愛する子どもになつてもらいたいものです。

